

いのち 1号

今年度、本校では、神奈川県教育委員会から、「いのち」を大切にすることを育む教育の委託研究を受けています。そもそも研究の有無にかかわらず、命を大切にすることは勿論、様々な「いのち」の捉え方がある中で、行動に移していくことが、大和中学校へ通う一人ひとりの生徒が充実した学校生活に繋がることとなります。

今年度は、学校だよりと並行して、「いのち」を発行していきます。それぞれの話題に対して、生徒のみなさんや保護者のみなさんと一緒に考えていきたいと考えております。

記載内容は、先生たちからだけでなく、生徒会活動や生徒のみなさんの作品なども含めて発行していく予定です。第1号は、校長から「いじめ」について取り上げます。

5月9日シリウスにて、コミュニケーション講師の吉井奈々さんの講演がありました。「自分を大切に生きること」、「相手も大切にしながらバランスをとること」、「自分の好きなことを大切にすること」、「命を大切にすること」、「幸せの基準は自分で持つこと」などなど、印象に残るお話を聞かせていただきました。

私も何名かのみなさんの作文を読ませていただきましたが、一人ひとりに想うことがあり、奈々さんの言葉がみなさんに勇気や元気を与えたことが伝わってきました。今回は、その代表的な言葉を取り上げ、「いじめ」を切り口として考えてみてください。

いじめは絶対に許される行為ではありません。

「自分を大切に生きること」

もし、自分が加害者だとしたら、

そんな自分になりたいですか？ そんな自分が好きになれるですか？

もし、被害者だとしたら、

自分を傷つけないでください。 苦しい気持ちを打ち明ける勇気を持ってください。

解決方法は一緒に考えます。 先生・校長でも構いません。相談機関等もあります。

◆大和市教育委員会へ相談
指導室：260-5210
青少年相談室:260-5036
◆スタンドバイ
Chromebook やスマートフォンから相談可能
◆いじめ 110 番
0120-874-255

「相手を大切にすること」

もし、自分が加害者だとしたら、

あなたの言動が友だちを苦しめ、登校できなくなったり、本人自身が自分を傷つけたりすることもあります。友だちの楽しい生活を奪うことは許されません。

だからこそ、いじめは絶対に許される行為ではないのです。

もし、自分が被害者にならないように加害的立場に立っている人だとしたら

勇気をもって、止められることが一番ですが難しい場合は大人に相談してください。

もし、周りでいじめを発見した人だとしたら

近くの大人に相談してください。

「いじめ」・・・えっ、私が

いじめに関しては、加害者・観衆・傍観者にならないことは言うまでもありません。
仲裁者の出現やいじめを否定する集団の雰囲気は重要ですが、
ここでは、「自分が被害者」になってしまった場合を考えてみてください。



- ・自信が持てずに、思い切った一歩が踏み出せない
- ・同じ学校、地域で過ごすことに恐怖が残る
- ・何かの拍子に過去を思い出し苦しむ

将来

特に SNS を使用した「いじめ」は、卑劣です

被害の波紋

四層構造

仲裁者

家族

傍観者

観衆

加害者

被害者

友だち

本人の苦しみ

- ・逃げたい
- ・自分はダメな人間だ。傷つける
- ・周りに分かってくれる人は誰もいない

友だちの心配

- ・力になってあげたいが・・・
- ・先生、何とかして
- ・次は、自分がやられるかもしれない

家族の苦悩

- ・何とか救ってあげたい
- ・学校なんか行かなくてもいい
- ・学校は、何をしているのか
- ・相手の親は、何を考えているのか



被害者の傷は「いじめの重さ」

友だちを、こんな目にあわせていませんか？
情報は様々なところから入ってきます。
正しく、きれいな心を持って過ごしていきましょう。